

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2024年 06月 13日

静岡県知事殿

提出者

住所 静岡県菊川市嶺田5100

氏名 安藤ハザマ興業株式会社 菊川工場

執行役員工場長 武田和彦

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0537 - 73 - 0090

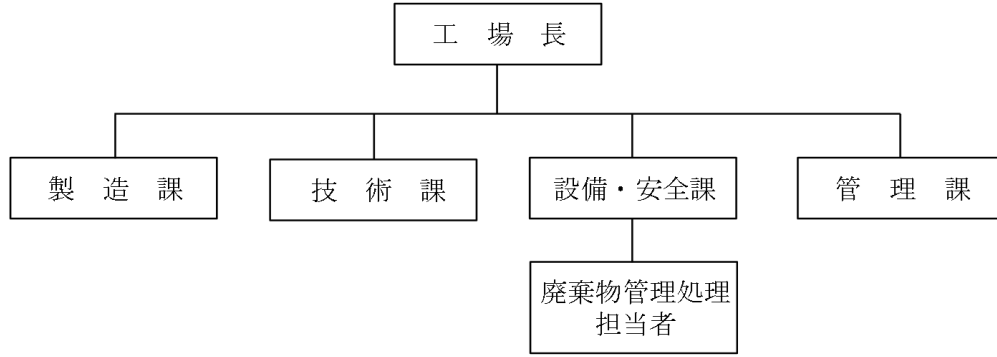
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	安藤ハザマ興業株式会社 菊川工場		
事業場の所在地	静岡県	菊川	市 嶺田5100
計画期間	2024/4/1 ~ 2025/3/31		
当該事業場において現に行っている事業に関する事項			
① 事業の種類	窯業・土石製品製造業		
② 事業の規模	前年度の売上額 1,066百万円		
③ 従業員数	13名		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre>graph LR; A[混合廃棄物] --> B[中間処理委託（破碎・圧縮）]; B --> C[再生]; B --> D[最終処分（埋立）]; E[木くず] --> F[中間処理委託（破碎・圧縮）]; F --> G[再生]; H[紙くず] --> I[中間処理委託（破碎・圧縮）]; I --> J[再生]; K[廃プラスチック類] --> L[中間処理委託（破碎・圧縮）]; L --> M[再生]; N[コンクリートくず] --> O[中間処理委託（破碎）]; O --> P[再生]; O --> Q[最終処分（埋立）];</pre>		

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	排出量
	管理型混合廃棄物	30.030 t
	木くず	29.425 t
	紙くず	14.700 t
	廃プラスチック類	3.325 t
	コンクリートくず	1,194.750 t
	(これまでに実施した取組) 廃棄物コンテナを複数台常設し、ダンボール・木くず・廃プラスチック類を分別した。 コンクリートくずは極力再生砕石利用されるよう排出した。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	排出量
	管理型混合廃棄物	60.000 t
	木くず	60.000 t
	紙くず	28.000 t
	廃プラスチック類	6.500 t
	コンクリートくず	2,000.000 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も上記内容を継続実施していくが、工場開業後製造開始4年目となる今年度は大型受注による製造量の倍増が見込まれているため、排出量も増加する予定である。	

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物コンテナを複数台常設し、ダンボール・木くず・廃プラ・その他のを分別を実施した。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後も上記内容を継続していくとともに、混合廃棄物に混在している木くずや廃プラ等の分別を強化していく。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	
		0.000	t
		0.000	t
		0.000	t
		0.000	t
		0.000	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	
		0.000	t
		0.000	t
		0.000	t
		0.000	t
		0.000	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t

	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	①優良認定処理業者への処理委託量 ②再生利用業者への処理委託量 ③認定熱回収業者への処理委託量 ④認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量				
		① (t)	② (t)	③ (t)	④ (t)	全処理委託量 (t)
	管理型混合廃棄物	30.030	28.210	0.000	0.000	30.030
	木くず	29.425	29.425	0.000	0.000	29.425
	紙くず	14.700	14.700	0.000	0.000	14.700
	廃プラスチック類	3.325	3.325	0.000	0.000	3.325
	コンクリートくず	0.000	1,194.750	0.000	0.000	1,194.750
	（これまでに実施した取組） コンクリートくずの排出にあたっては、優良認定取得業者ではないが、全量再生使用ができる業者に排出している。 コンテナの常設数を増やして各種に分類している。					

		【目標】				
②計画	産業廃棄物の種類	①優良認定処理業者への処理委託量 ②再生利用業者への処理委託量 ③認定熱回収業者への処理委託量 ④認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量				全処理委託量 (t)
		① (t)	② (t)	③ (t)	④ (t)	
	管理型混合廃棄物	60.000	55.000	0.000	0.000	60.000
	木くず	60.000	60.000	0.000	0.000	60.000
	紙くず	28.000	28.000	0.000	0.000	28.000
	廃プラスチック類	6.500	6.500	0.000	0.000	6.500
	コンクリートくず	0.000	2,000.000	0.000	0.000	2,000.000
(今後実施する予定の取組) 今後も上記内容を継続していく。						
※事務処理欄						

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。